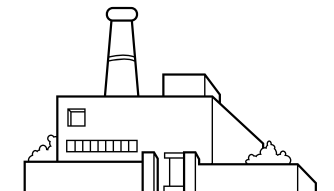


クリーンセンター建設に向けて



クリーンセンター建設には、みなさんのご理解とご協力が必要です。

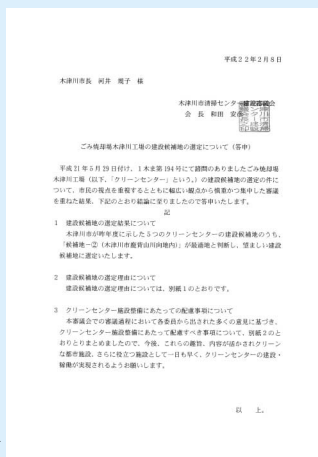
本年度設置した清掃センター建設審議会においては、第1回から慎重かつ集中した審議をされ、第8回審議会(2月8日開催)で望ましい建設候補地を選定され、同日答申がありました。今月号では、その答申内容について紹介します。

建設候補地の選定結果

木津川市が昨年度に示した5つのクリーンセンターの建設候補地のうち、「候補地 - ②(木津川市鹿背山川向地内)」が最適地と判断し、望ましい建設候補地に選定します。



◀答申風景



答申書▶

選定理由

答申に至るまでには、木津川市の可燃ごみの処理の現状、今後のごみ処理量、施設規模および必要となる用地面積などを踏まえ、クリーンセンターの建設候補地の現地視察はもとより、近隣市に立地する先進クリーンセンターを視察し、我が国の最新の技術と豊富な経験を活かしたクリーンセンターの現状について視察・調査をしました。

これらの調査などに基づき、市民の立場から必要かつ望ましい条件を満たしたクリーンセンター施設・立地に対するコンセプト・目標像について基本的な方向性を整理の上、この方向性に基づき、建設候補地の位置選定をおこなうための評価項目、評価の視点および評価基準を定めました。

この評価基準に5つの建設候補地の状況を照らして評価した結果、「候補地 - ②(木津川市鹿背山川向地内)」が望ましい候補地であるとの結論に至りました。

クリーンセンター実現にあたっての主な配慮事項(要旨)

①クリーンセンター整備の必要性和早期建設・稼働に向けた取り組みの推進

木津川市にとって、クリーンセンターの建設は、市民の日常生活に直接影響のある緊急かつ最も重要な課題であると考えます。本審議会で審議した内容を活かして、クリーンセンターの建設・稼働の早期実現を目指し、その取り組みを更に積極的に推進すること。

②市民に信頼されるクリーンセンターの整備・運営の確保

市民の理解と協力を得るための取り組み

・市民の理解と協力

周辺住民の理解と協力が得られるよう、整備する最新のクリーンセンターの技術水準について十分に説明をするとともに、周辺住民の意見を聞き、信頼されるクリーンセンター整備に向けた努力をすること。

- ・環境影響に係る調査への周辺住民の参加
周辺住民の生活や自然環境に対する現状把握、さらに不安、心配を払拭するためにも、環境調査の項目・位置の検討に際しては、専門的な観点からの意見等に加え、周辺住民の意見を聞くなどの配慮をすること。
- ・情報公開の推進
情報公開に努め、市民に信頼されるよう努めること。

安心・安全・安定したクリーンセンターの確保

- ・施設の性能確保
最新、最良の技術を取り入れ、環境、安全、安心及び安定等に十分配慮すること。
- ・施設の適切な運営管理
確実かつ安定した施設の稼働を確保することを基本とした上で、コスト縮減の視点を十分配慮した運営をおこなうこと。
- ・ごみの収集運搬車に対する配慮

③地域活性化等に役立つクリーンセンターの有効活用策の展開

- ・環境学習の学びの場等の確保
環境学習の学びの場等として、クリーンセンターを活用するとともに環境に関する各種の情報を発信する機能を確保するよう配慮すること。
- ・災害時における地域支援機能の確保
周辺住民、地域住民が安全に避難できる避難場所等として活用できるように整備されたい。また、クリーンセンターの整備に際しては、災害に強い施設・災害時における周辺住民、地域住民の地域支援の拠点として活用することを想定した施設計画とすること。
- ・地域活性化と環境ゾーンの整備に向けた取り組み
余熱エネルギーを有効活用するとともに雨水や太陽光などを利用した設備を積極的に取り入れ、自然調和型の施設整備を目指すこと。
関西文化学術研究都市の中核地として相応しい木津川市がイメージできるよう周辺環境との調和・景観・デザイン等に配慮するとともに、地域活性化の拠点として活用できるよう、市民に親しまれ、利用される施設計画とすること。

④ごみの分別・減量の推進

クリーンセンターの建設にあたり、クリーンセンター周辺住民の気持ちを考慮して、ごみの減量・分別を更に進め、また環境に対する負荷等を最小限にするための対策について、全市民が連携・協働して取り組むべきである。

⑤クリーンセンター施設の早期建設・稼働に向けた進行管理

この答申を受け、市として検討した結果、答申の候補地である「**鹿背山川向地内**」を建設候補地として決定しました。

現在、市の可燃ごみについては、打越台環境センターにおいて焼却処理(中間処理)をしていますが、関西文化学術研究都市の宅地開発などともなう可燃ごみの増加分および加茂区域の可燃ごみについては、打越台環境センターの施設規模などにより処理しきれない状況です。

また、打越台環境センターは、昭和55年に稼働して以来、約30年が経過し老朽化が相当に進んでおり、市民生活に欠かすことのできないクリーンセンターを早期に建設することが緊急の課題となっています。

今後、建設候補地の周辺住民、土地所有者、関係機関などへ報告と説明などをおこない、一日も早いクリーンセンター建設・稼働を目指します。



問合せ まち美化推進課 清掃センター推進室
☎75-1215 Fax72-3900
E-mail: clean-center@city.kizugawa.lg.jp